

所長就任の挨拶

禅研究所所長 大 野 栄 人

中祖一誠所長の退任にともなしまして、平成十七年四月一日、不肖私が第五代の所長に任命されました。浅学非才の身ではありますが、就任した以上は、微力ながら禅研究所の更なる発展のために身命をそそがせて頂くことをお約束いたします。

ご承知のように、禅研究所は、本学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」の理念を、教育と研究の両面において具現化し、禅の精神を国内外に普及させ、社会に貢献することを目的として、昭和四十年（一九六五）七月に設置されました。

昭和五十五年（一九八〇）に、日進学舎のキャンパスに独立の研究棟と坐禅堂が建築されまして、禅研究所は、大学直属の研究所に位置づけられました。

研究所としての完全な体制を確立した禅研究所は、当初の目的を達成するとともに、多様化した社会や人間に対応するために新たな方向性が模索され、時代に即応する対応を余儀なくされて今日に至っています。

混迷した現代社会では、多様な価値観のもとで想像もできない非人道的事象が起っています。

姉齒秀次元一級建築士による耐震強度構造計算書の偽装事件と偽装を隠蔽したヒューザー等の関係企業、ホリエモンの名で若者に絶大な人気があった堀江貴文ライブドア元社長による証券取引法違反・粉飾決算・大幅な株式分割事件、ビジネスホテル東横インによる身障者設備の撤去事件等々と、企業の利益のみを追求する余り、日本人が長い年月をかけて培ってきた倫理観は地の底に落ちたといっても過言ではありません。

また、インターネット時代を迎えた今、真実の人間性が確立されなければ、顔の見えないネット上で何が起るのか分からない状態であり、何が起っても不思議でない状況下にあります。一方では、いじめ・不登校・引き籠もり・精神的な種々の病気を抱える若者も増大し続けています。また、勉強や労働の意志を持たないニート等々の苦悩する若者が二百万人いるともいわれています。

日本の行く末を考えれば、未来に暗い影が投影されています。この暗い影を払拭しなければ、日本人に未来はありません。日本という国の存続すら危ぶまれております。

元来、日本人は貧しくとも貧しさに負けることなく、誠実で忍耐強い民族でした。敗戦後、アメリカ指導型の「日本国憲法」が制定され、全てがアメリカナイズされました。高度経済成長を遂げ、バブル期を頂点として、いつしか日本人は、豊かさや利益のみを追い求める欲望的人間に変容していききました。

宗教者といえども例外ではありません。世間の人々に「正しい智慧」と「正しい生き方」を教化する義務を怠って、高額な戒名料や葬儀料を要求する俗人的僧侶が多く存在しております。宗教者としての使命は何か。宗教者としての原点に帰り、改めて考え直してもらわなくてはなりません。

心静かに考えれば、私どもは日本人として絶対に失ってはいけないものを、いとも簡単に失ってしまったのです。豊かさや利益を追求する欲望に、己が心を奪われてしまったのです。

まさに日本人の誰もが「欲望」という病気にかかっているのです。この「欲望」という病気は、治療しな

ければ治りません。

「欲望」という病気を自分で治療できる簡単な方法は、利益を求めない無所得の「坐禅」をして頂くことです。

自己の変革を願われるお方は、是非とも坐禅堂に足を運んで下さい。平成十八年度より、禅研究所に二名のティーチング・アシスタント（TA）を配属しましたので、火曜参禅会以外でも、事前に申し込んで頂ければ、何時でも坐禅指導をいたします。

禅研究所は、学内にあつては、建学の精神である「行学一体・報恩感謝」の理念を、全学生や全教職員に周知徹底して具現化するとともに、社会の人々の誰にも坐禅堂を開放して、「真実の人間性」を開顕してもらうための重要な役割を果たし、社会に貢献できることを目的としております。

どうか、お気軽に禅研究所に足を運んで下さい。スタッフ一同心よりお待ちしております。